

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500777		
法人名	株式会社 かづみ		
事業所名	グループホーム あんしん		
所在地	千葉県茂原市下永吉345-2		
自己評価作成日	平成22年5月19日	評価結果市町村受理日	平成22年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で「自立した日常生活にぬくもりのある暮らし」を提供させていただきます。職員の笑顔をやさしい会話に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あんしん」は、民家を改修した施設となっており、入居者に馴染みの深い設計となっている。施設内は、民家特有の温かみは残しつつ、段差の除去・目隠しカーテンの設置等を行い、入居者の安全確保やプライバシーに配慮した改築が行われている。系列法人が特別養護老人ホームを所有しており、看護師の応援や医療面での相談等が行われ、入居者のニーズに対応した柔軟なサービスの提供がなされている。職員は、笑顔を大切に、入居者を思いやりその人らしい自由な生活の提供に向け、支援方法を検討・工夫している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年5月30日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示すると共に、職員全員で理念を共有し入所者が安心して楽しく生活できるように支援を行っている。	「個人を尊重し、安全で安心できる楽しく美しい共同生活体を地域を含めた和をもって確立する」という理念を掲げている。理念においては、事業所内に掲示しており、職員・入居者・来訪者等への周知を行っている。	定期的に、理念について職員に話す機会を設け、より深い理念の浸透及び理念に基づくサービスの強化に向けて取り組んで頂く事を望みます。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しておりまして、地域行事等に参加し交流を図り、近隣住民と散歩、買い物時には挨拶を交わす。	近隣住民とは、散歩等の外出時に挨拶を交わす関係が築かれていると共に、盆踊りやゴミ拾い等の地域行事に積極的に参加しており、地域との交流を図っている。また、自治会の回覧板を通じて近隣住民や店舗との情報交換・交流が図られている。その他にも、地域の社会福祉協議会主催のふれあいサロンに参加しており、地域高齢者との交流も行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努めている。	/	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	努めている。	市役所職員・民生委員・地域住民・施設関係者を構成員として、22年の1月に開設以来初めての運営推進会議を開催し、施設状況の報告・参加者の自己紹介・施設の運営方針説明等が行われた。施設として、運営推進会議を地域交流・施設の理解促進の場として考え、今後も継続して開催するよう意識している。	施設として、運営推進会議を今後は年2～3回以上開催できるよう目標として定めている。運営推進会議を活用し、地域や関係者と密に意見・情報交換を行いながら、更なるサービスの質の向上に繋げるために、目標を達成して頂く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との連絡を取り合い、相談等を行い外部研修会の紹介を受ける。	市に対して、介護支援専門員が中心となって、相談・報告等を行い、密に連携を図っている。また、外部研修の紹介を受ける等、協力体制も構築されている。社会福祉協議会主催のふれあいサロンに参加等を通じて、市や関係機関と協力して入居者の生活の活性化を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考慮して玄関の施錠を行っている。希望に応じて開錠し、職員と外出する。	身体拘束排除における施設方針・マニュアルの整備が行われている。玄関においては、施設の目の前が交通量の多い道路となっており、入居者の安全確保の為に、施錠をしている。施錠に関しては、家族に説明の上、同意を得ており、入居者の自由を束縛しないよう細心の注意を払っている。	身体拘束排除や虐待防止に関する研修を実施すると共に、研修内容を記録する事で、職員全員へ情報・意義を共有し、より質の高いサービスの提供に向け取り組んで頂く事を期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者同士の虐待が多少あり、対策を話し合う。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第6ブロック・グループ連絡会で勉強会を実施しており、理解出来るよう職員を参加させている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、利用者・家族の不安、疑問を尋ね、十分な説明をして理解・納得をしてもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口は市の高齢者福祉課が行っている。内部の相談は管理者、利用者は職員に話し、不満や苦情を話す。	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等においては、会議等で周知・検討し、適切な改善に努めている。	家族とのコミュニケーションを深め、より多くの意見・要望を収集する為に、一般職員の名前を覚えてもらえるよう工夫して頂く事を望みます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞き、職員の意向や、希望に沿うように努めている。	連絡ノートや申し送りにて職員からの意見や提案を確認すると共に、管理者が個別に職員と話をする機会を設けており、一人ひとりの意見や思いの把握に努めている。また、日頃の勤務において、少人数で話し合う機会を作っており、意見・情報交換が日常的に行われている。	職員会議の実施を定例化し、定期的に職員からの意見や提案を確認する機会を設け、職員間の情報の共有・意識の確認をして頂く事を期待します。また、法人内での異動による負担を軽減するために、十分な引き継ぎを行い、入居者や職員の情報・業務内容の確認を万全にして頂く事を望みます。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働いてもらえるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指し、研修には積極的に参加できるように促している。(個人で資格取得の勉強をしたりしている。)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第6ブロック・グループ連絡会に参加しており、会議・勉強会などで情報・意見交換をしたり、他事業所の良いところを取り込み質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>認知度によるが、本人が困っている事、要望は聞くようになっているが、手のかかる利用者中心になってしまい、個々の要望を聞き入れられない状態になってしまう。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が入所前見学に来られた時、困っている事・その他の相談を聞き、入所の際には不安や要望を聞いている。面会時にも相談に応じている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時には本人・家族のニーズを把握し、見極めて支援できるよう心掛けています。他のサービス利用もある事を示唆している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>築いている。(誕生日会など家族に連絡をする。)</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族等との関係</p>	<p>地域との和を理念に掲げ、日頃の交流を通じて、入居者と地域住民が新たな馴染みの関係を築けるよう配慮している。また、家族との外出や外泊は自由となっており、家族との関係族にも配慮している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士で話をしたり、歌を唄ったりして関わり合い、支え合えるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めている。(重度の認知症の人には家族の意見を参考に本人だったらどうするか？どうするだろうと考え検討している。)	入居時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。また、必要に応じて、医師の意見書や他のサービス事業所から情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、会話・表情から本人の意向をくみ取り、職員が本人の立場に立って支援方法を検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし・生活・趣味・生い立ちなどをアセスメント表やフェイスシートに記入し把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望・希望・職員からの意見などフェイスシートやアセスメント表を活用し介護計画を作成している。	家族の意向をもとに、計画作成担当者が介護計画を作成し、職員間で意見を出し合いながら必要に応じて変更し、現状に即した介護計画の作成に努めている。定期的に介護計画の見直しを行っており、その都度、家族に説明し、同意を得ている。	計画作成担当者が非常勤と言う事もあり、一般職員との話し合う機会が少ないと共に、介護計画の評価等の書類の周知が不十分となっている。再度、体制の見直しを行い、より多くの意見・情報交換の実践や書類の周知を行い、施設全体で介護計画の作成に臨んで頂けるよう工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入している為、日々の様子などを参考にし、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所にあるディホーム・グループホームに気分転換をかねて外出したり、通院の支援や隣の床屋・家族との外出など支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	良い関係を築きながら支援している。(健康診断・通院・往診・急変時にも対応してくれている。)	協力病院を中心に、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、必要に応じて内科往診等が行われており、適切な受診支援がなされている。また、看護師職員による健康管理が行われている。系列法人の特別養護老人ホームとの協力により、看護師の応援等や医療面での相談が可能となっており、柔軟なサービスの提供が行える体制が構築されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営者が看護師で住まいが近くなので、急変時はすぐに対応してくれる。非常勤の看護師が週一回勤務して健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>その人らしい最後をむかえられるよう、主治医・看護師・家族・職員が一丸となり、環境を整え看取りを行った。</p>	<p>重度化や終末期における施設方針が明文化されていると共に、家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には、身体状況・医師の意見・家族の意向を踏まえて検討し、出来る限りの支援が行えるよう体制を整えている。</p>	<p>入居時に本人・家族の意向を確認しているが、時間の経過により、状況や心境の変化等が考えられる。定期的に意向の再確認を行い、新しい情報を職員全員で共有する事で、入居者・家族の意向に沿った支援が行えるような取り組みを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当のポスターを数ヶ所掲示し、いつでも見れるようにはしてあります。</p>	/	
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導のもと、年2回消防避難訓練を行っている。避難マニュアル・対応手順書・緊急連絡網等が施設内に掲示されている。</p>	<p>施設内には、火災報知機や消火器が設置されていると共に、年2回の消防避難訓練を実施しており、非常災害時に備えている。施設内には、複数の避難経路が確保されており、入居者の安全確保がなされている。また、日頃から地域とのコミュニケーションを通じて、非常時・緊急時の協力の呼びかけを行っている。</p>	<p>非常災害時の訓練や研修を行う際、夜間を想定した内容を取り上げる事により、様々なケースに対応した避難方法を職員全員が理解して頂けるよう取り組みを望みます。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>理念でもある個人を尊重して「介護するのではなく」「介護をさせていただきます」と言う意識で対応し、支援している。</p>	<p>施設のトイレや脱衣所にカーテンを設置しており、入居者のプライバシーに配慮した工夫がなされている。また、職員は「介護させて頂く姿勢」を大切に、声掛け・誘導の際には、入居者の尊厳に配慮するよう努めている。</p>	<p>プライバシー保護に関するマニュアル整備や研修を実施する事により、職員全員が入居者のプライバシーの保護に関する重要性をより理解できるよう取り組みを期待します。</p>
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が意思決定・希望を表せる方は納得して支援している。認知度によって異なる場合もある。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程みたいなものはあるが、一人ひとりのペースや希望に沿うようにはしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容店を利用したり、家族が連れて行く。服装は季節の物を家族が持って来てくださる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る利用者が少ないが出来る仕事は一緒に行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立においては、系列法人の栄養士が行っており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、入居者の基部に応じておかずを変更すると共に、誕生日等の行事の際には、特別食を提供しており、季節や希望に沿った食事提供もなされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量・水分量など個別に記録し、栄養士のメニューに添った栄養バランスに努めている。毎月体重測定を実施している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思に任せてあるが、声かけをして歯磨きをしてもらうようにしている。出来ない時は介護者が一部介助してやる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	一人で排泄出来ない方は時間を見てトイレ誘導している。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、適切な声掛け・トイレ誘導を行い、出来るだけパットやおムツの使用を少なくできるよう工夫している。また、体操の実施・水分量チェック・栄養士による献立により、入居者の便秘防止にも努めている。	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	食物繊維の多い食事・牛乳・ヨーグルトなどの乳製品や水分摂取などに気を付け「生き生き体操」などで体を動かすようにしている。		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	利用者の希望を取り入れ、入浴時間又は、シャワー浴・清拭などを行い、入浴拒否にはタイミングや声掛けに工夫をして対応する。	入浴においては、毎日実施しており、希望に応じて回数等柔軟に支援している。脱衣スペースには、カーテンを設置し、プライバシーに配慮すると共に、トイレが隣接しており、利便性に富んだ設計となっている。入居者の入浴拒否においては、声掛けやタイミングを工夫し、週3回以上入浴機会を設けられるよう努めている。必要に応じて、シャワー浴を実施している他、毎食後の口腔清掃を徹底しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	居室の温度調節に努め、気持ち良く休めるようにしている。		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	努めています。		
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	毎日リハビリを兼ねた「生き生き体操」で体を動かし、誕生日会の実施や配食サービスなどを行って気分転換などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望に応じて、散歩・ドライブなど外出を行っている。季節ごとの催しなどにも参加している。</p>	<p>希望や天候に応じて、散歩やドライブ等の外出活動が日頃から行われている。また、定期的に季節を楽しめるよう外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。施設で介護タクシーを所有しており、入居者の希望に応じた外出が行えるよう体制を整えている。</p>	<p>施設として、法人の所有する他施設との交流や入居者の身体状況に応じた外出の工夫を課題として挙げている。今後も継続的に検討を重ね、入居者の生活の活性化に繋がる外出活動の工夫・実践を期待します。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>空の財布を持ち、お金を持っていると理解し喜びを感じている。</p>	/	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙を書ける利用者はいないけれど、電話の出来る利用者は家族に電話をかけられるよう支援する。</p>	/	
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各所に手摺りを設置し出来るだけ段差を無くして安全面に配慮がされている。共有スペースには利用者の写真や季節の飾り付けがされている。</p>	<p>施設は民家を改修した造りとなっており、入居者にとって馴染みの深い構造となっている。共同生活スペースには椅子やソファが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるようになっている。また、季節に応じて飾り付けが施され、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所・リビングが空間になっており、自由に移動しながら時間を過ごす様になっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を自由に持ち込む事が出来ており、入居者が安心して過ごせるよう配慮され、全居室にエアコンが設置され職員の空調管理がされている。	入居者・家族の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を使用する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置しており、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・わかることは各自で行いそっ と見守りをし、自分は自分らしく生活してほしい工夫をしている。		